

# 救護施設 大阪市立港晴寮



救護施設 大阪市立港晴寮は、社会福祉法人みなと寮が、大阪市から指定管理者の指定を受けて運営する福祉施設です。

60年の歴史を持つ当法人の中でも2番目に出来た施設であり、当法人で最初に運営を開始した救護施設です。

救護施設とは生活保護法に基づく福祉施設であり、福祉の原点とも言われている施設です。身体上や心身の理由などにより、独立して日常生活を営むことができない障がい者や生活困窮者を対象に生活全般の支援を行い、健康で文化的な生活を提供しています。

利用者が自立し社会復帰できることを目指して、残存能力や社会資源などを活用し自らの判断と決定により主体的に生活して頂けるよう支援しています。

## 【救護施設港晴寮の今年度の課題と目標】

5月16日に、法人内事業所の連絡会議が開催され、各事業所より年度目標等の発表がありました。当施設の課題と目標としては、社会貢献および地域との交流により力を入れて取り組んでいくことを掲げました。（※より詳しい事業計画については「港晴寮ホームページ <http://koseiryu.org/>」に掲載しています。関心のある方はご参照下さい。）

- ①**施設内サービス**～利用者の皆さまへの、個別支援計画に則った支援を実施していくと努めます。計画書に則ったケースワークへを実施し、利用者の皆さまの自立支援につなげていきます。
- ②**地域貢献**～居宅生活訓練事業の継続と、施設OBの方への「ふれあい訪問」事業を港区福祉事務所との連携を取りつつ実施していきます（独自事業）。
- ③**地域との交流**～港晴地域の「ふれあい喫茶」に毎月参加させて頂いております。今年度より港晴地域福祉活動協議会へ参加させていただく事になりました。広報誌の地域への配布など、施設と地域との交流をより深めることを目標といたします。
- ④**社会貢献事業**～港区内在住の施設OBへの「ふれあい訪問」を4月より開始しました。また、施設内の自販機前に、缶飲料のプルトップ回収BOXを設置し、利用者職員にも協力を呼びかけています。集まったプルトップは、児童施設の玩具等して寄附されることになるそうで、港区社協へ持参しています。港区社協の事業への一助となればと考えています。

## 【屋上バーベキュー（特別献立） 5月8日・9日】



お昼ご飯に特別献立として、施設屋上でバーベキューを行いました。

焼肉は、利用者の皆さまの人気メニューのひとつです。

ワンフロアずつ、二日間に分けて実施しました。



この笑顔！

⇒⇒



## 【港晴地域ふれあい喫茶に参加させて頂きました！ 4月26日】



平成 26 年 4 月 26 日、利用者の皆さんと一緒に、月に 1 回港晴東会館にて実施される、「港晴地域ふれあい喫茶」に参加してきました。写真はその時の様子です。

利用者の皆さんが注文したのは、なぜか同じメニュー。コーヒーとフレンチトーストとを、美味しく頂きました。

100 円でこんなに美味しいのを頂けるなんて、とても嬉しいです。

当日は、同じ法人の各事業所からも、港晴地域とのつながりの深い職員さんが数名参加されていました。

これからもできるだけ参加させて頂きますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 【歌謡クラブ 5月24日】



毎週様々なクラブ活動を行っています。施設内作業後の時間を活用した、余暇活動の一つです。

これはそのうちの一つ【歌謡クラブ】



皆さんの自慢の喉を聴かせてもらいます。

選曲も真剣に 『どの曲が、点数を取りやすいかなあ・・・？』 得点競争？

## 【社会福祉法人みなと寮人権研修会 5月24日】

この日、吹田市にあります弘済院第1特別養護老人ホーム主催で人権研修会が行われ、（於：弘済院寿楽館）職員2名が参加させて頂きました。「閉じ込められた生命」と題したその研修内容は、ハンセン氏病を家族に持つ「ドラんカーズ」のリーダー K さんの講演とコンサートでした。

内容については、職員の感想文をご紹介します。

「講師の K さんは、ご自身が幼少時に父母と姉がハンセン病のために療養所に入所され、幼い K さんも9歳まで育児園で育てられることになった。

（中略）家族との生活の記憶がなく（中略）この当時の思いをご自身のバンドの楽曲「閉じ込められた生命」の歌詞にも書き綴られており、述懐されていた。ハンセン病は（中略）法律でも約90年間、らい予防法の隔離政策が1996年まで存在し（中略）偏見や差別の長い歴史があったことが理解できた。」

患者ご本人ではなく、当のご家族が思いを発信することはこれまでもほとんどなかったことなのだそうです。その勇気と K さんの体験談の重み、しかもそれを軽妙なお話で語られることに感銘を受けました。



## 【施設玄関のツバメの巣です】

ちょうど、親鳥が、子どもに餌をやっていました。

毎年この時期になるとやってきて、港晴寮のみんなの関心を集めます。

6月1日現在、雛が3羽かえり、親鳥が一生懸命エサを運んでいました。



ひな鳥が成長して、巣立っていくのを見守りたいと思います。

ツバメがやってきたので、今年一年も、港晴寮は良い年になるのではないかな、と思っています。



【編集後記】この号では、港晴寮の今年度の課題と目標とを掲載させて頂きました。全国の社会福祉法人・救護施設にとって、運営がたいへん厳しい眼で見られていることは事実です。法人連絡会議では、大西理事長（全救協会長）からも「社会貢献に積極的に取り組まなければ、社会福祉法人は今後生き残れない」とのお話がありました。法人救護施設全体として、大阪府社協主催の生活困窮者支援事業への積極的参加、「大阪地域生活定着支援センター（よりそいネット）」への加入など、今後も取り組んでいきます。

### <<<社会福祉法人みなと寮の情報公開>>>

#### ☆社会福祉法人みなと寮ホームページ

<http://www.minatoryo.or.jp/>

#### ☆大阪市立弘済院第1特別養護老人ホーム

<http://www.kosaiin1toku.jp/>

また、平成24年11月19日に、当大阪市立港晴寮のホームページを開設しました。

施設行事や、利用者に提供する献立紹介など、情報公開を実践しています。



#### ☆港晴寮ホームページ

<http://koseiryoyo.org/>

そのほか、当法人へ就職を希望される学生の皆さま向けに、採用情報サイトを運営しています。

#### ☆みなと寮採用情報サイト <http://minatoryo.com/>

発行：港晴寮広報担当（編集委員：木田・辻下）

〒552-0023 大阪市港区港晴 2-4-25

発行年月日：平成26年6月5日

TEL 06-6572-0061 FAX 06-6575-1061